

交付番号：20010

機関名及び氏名：兵庫県立人と自然の博物館 高野 温子

## 実施内容報告書

助成対象事業の「頌栄短大植物標本コレクション～そんなに集めてどうするの?～」は、当初 2020 年 7 月 11 日から開催の予定で準備を進めていた。しかしコロナ禍による緊急事態宣言をうけ、博物館は 3 月 1 日～6 月 1 日まで臨時休館を余儀なくされ、県庁から出勤職員を 3 割以下に減らすようにという指示が出される状況で、準備もままならず開催が危ぶまれた。一時は来年に延期という話もあった。ぎりぎりまで決断をまち、関連講座の日程は人員募集の関係で変更ができなかったものの、企画展は 8 月 1 日から期間短縮という形で無事に開催することになった。通常と異なり 3 密を避けながらの開催で、隣人とのスペース確保のため、関連講座の参加人数制限をかけざるをえない状況があった。

植物標本だけの展示は珍しいとみえ、取材の際にも同様の企画が他にあるかという質問が多かった。博物館の来館者数は前年度比較で 7 割を切る中、展示内容については度々質問を受けるなど、来館者の反応は上々だった。

●期間中の博物館入場者数（2020 年 8 月 1 日—9 月 13 日） 23,560 人

●関連講座 1 頌栄植物標本コレクション：どうしてそんなに集めたの？

日時：2020 年 7 月 12 日

講師：黒崎史平（頌栄短期大学名誉教授）

参加者：19 名

●関連講座 2 「光合成をやめた植物」従属栄養植物」の新種発見と生態解明—博物館標本が果たす役割を中心に—

日時：2020 年 7 月 23 日

講師：末次健司（神戸大学准教授）

参加者：16 名

●広報関係

神戸新聞（7 月 30 日、9 月 8 日）

朝日新聞（8 月 27 日）

読売新聞（8 月 31 日）

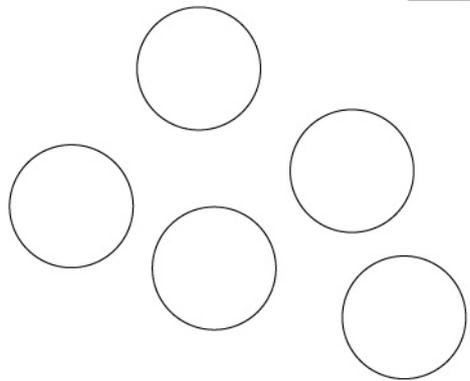
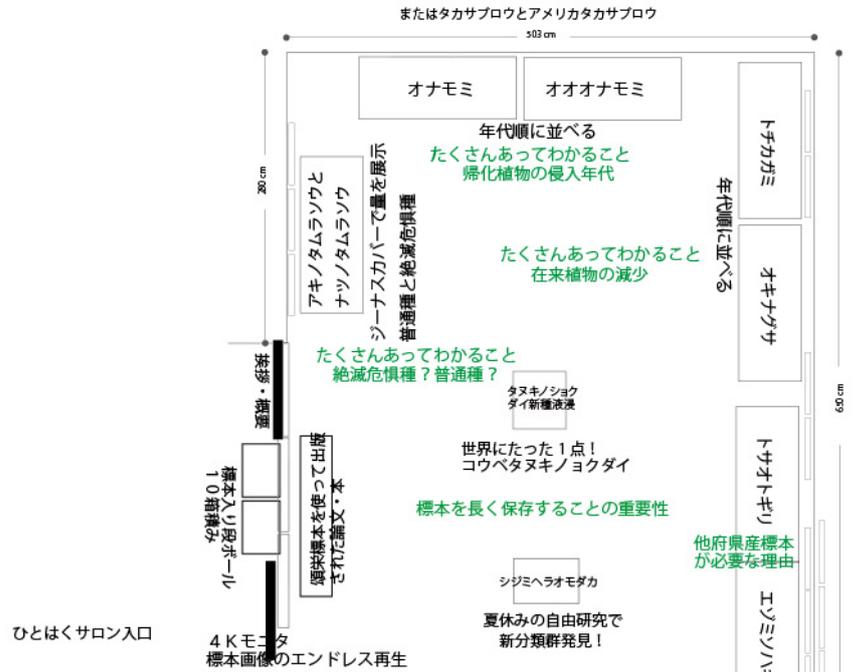
兵庫県庁 HP（7 月 27 日～）

インターネットミュージアム（7 月 27 日～）

頌栄短期大学ブログ

人と自然の博物館 HP（7 月 10 日～）

展示レイアウト



50インチモニター  
顕栄標本コレクターの思い  
(動画制作委託するもの)  
再生

サロン休憩コーナー：顕栄のお宝標本

交換お宝標本の中身  
タカノホシクサ 絶滅種  
ウミノサチスゲ 東大と顕栄しか持っていない  
シラタマホシクサ 1,890年代に牧野富太郎が採集

梅太産標本  
ヒメタツナミソウ(タイプ)  
マツムシソウ(声屋浜)

交換お宝標本    顕栄お宝標本

## 展示風景（抜粋）



### 展示入口と標本画像展示

本企画展は「ひとはくサロン」と呼んでいる、情報端末コーナーと休憩エリアの併設したエリアを使って実施した。入り口には垂れ幕、画面右には現在進めている標本デジタル化の成果として、標本画像 3000 点をモニターにコピーし、エンドレスリピート再生した。



### 頌栄コレクションの概要展示

頌栄短大は 100 年を超える歴史を誇り、標本も 1890 年代から 2000 年代までと幅広い。しかし生物系の教員が 2 名になり、標本に基づく植物誌を編纂する機運が高まった 1980 年代以降の標本が多いことを、アケボノソウ標本を例に年代ごとに標本を纏めて展示した。



### ブナの地理的変異の展示

ブナの葉形変異（北へ行くほど、日本海側程葉サイズが大きい）はよく知られた地理的変異の例である。大判の布に日本地図を出力し、採集地の上にブナ標本を並べた。「標本が沢山あって初めて分かること」を一目で理解してもらう仕掛けとしての目玉展示になった。



### シジミヘラオモダカ標本

「シジミ」は兵庫県三木市志染町（しじみちょう）からとられた名前である。1930年代、神戸の女学生が夏休みの課題として採集した標本が、牧野富太郎によって新変種とされた。時は巡って東京都立大学牧野標本館から頌栄短大に送られた交換標本に神戸の女学生が採集した標本が混じっていた。そのストーリーを漫画にして標本と併せて展示した。



### 兵庫と高知のトサオトギリ標本

2012年に兵庫県で初めて見つかったトサオトギリ標本と、牧野富太郎が高知県で採集したトサオトギリ標本を展示。兵庫県産トサオトギリ標本が頌栄短大に持ち込まれた当時、対応した福岡・黒崎両教授は鑑定に大いに悩んだというが、頌栄に高知県産で牧野富太郎が同定した「間違いのないトサオトギリ」標本があったことで、トサオトギリ

という鑑定がすぐに可能となった。他府県産標本の収集の重要性を訴えた展示。



### コウベタヌキノシヨクダイ標本

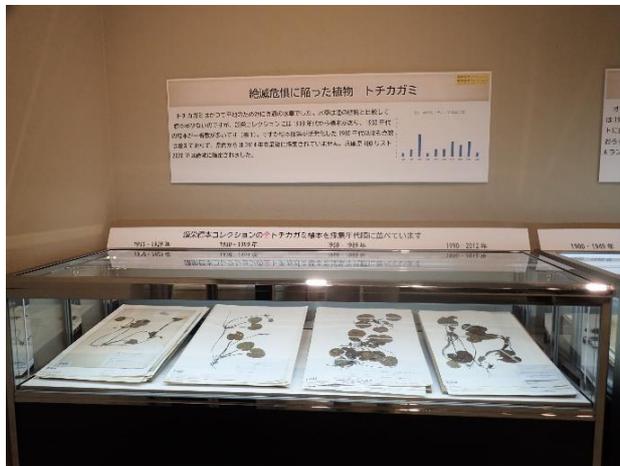
27年前に1度だけ、1個体だけ発見され頌栄の標本庫で眠っていた植物が新種と判明した例。

標本を末永く保存することの重要性を訴えた。現地での発見から、専門家によって新種と判明するまでのストーリーを漫画でわかりやすく解説した。漫画にひかれてか、立ち止まって見る人が多かった。



### 頌栄のお宝交換標本

現在は絶滅してしまったタカノホシクサ標本、黒崎史平頌栄短大教授（当時）が東大の大場秀幸教授（当時）に3度頼んで分けてもらった、南硫黄島にのみ生育するウミノサチスゲ標本等を展示した。



### トチカガミ標本

トチカガミは平地の豊栄養化したため池にかつて普通に見られた水生植物だが、昨今姿を消し、今年の兵庫県レッドリストでは県内絶滅に指定された。このコーナーでは年代順にトチカガミ標本を並べた。他の普通種は1980, 1990年代の標本が多いのに対し、トチカガミが一番多いのは1930年代で、年代が新しくなっても標本が増えていない。



### 出版物

頌栄短大植物標本庫は京大、大阪自然史博と並んで関西3大ハーバリウムに数えられていた。100年を超える歴史の中で、頌栄短大の標本を使って発表した論文や著作は数多い。このコーナーでは標本を集めた成果として、頌栄標本を引用した著書や論文を展示した。